

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立鶴山小学校

教育目標（めざす児童生徒像）	今年度の指導の重点
学習・生活集団力を高め、学び認め合う心豊かな子どもの育成 考える子 助け合う子 やりぬく子	1. 確かな学力の育成を図る。 基礎的な学力の向上に努める。 表現力を高め、学びあう力の育成に努める。 2. 人権感覚豊かな人間関係づくりを推進する。 集団生活のルールを身につけ、安心感のある学校生活を推進する。 いじめ等の不合理的に気づき、違いを認め合い、ともに解決しようとする子どもを育てる。 3. 特別支援教育の充実を図る。 居場所としての学級・交流学級をつくる。 4. 連携を進める。

調査結果について（調査結果において明らかになったこと）	
【学力状況調査の結果】 全国(小6) 国語A・算数Aとも県平均と比べて正答率が低い。 国語B・算数Bとも正答率が県平均を下回る。 国語A・B・算数A・Bとも無回答率が高い。 単位量当たりの求め方・全体と部分の関係を表すグラフ・情報を整理し筋道を立てて考え、記述する問題等に課題がある。(本校52.1% 県60.3%) 国語Bの「課題を解決するために目次や索引を活用して本を効果的に読む」は正答率が県平均より高い。(本校69.1% 県64.7%) 算数Aの「100 - 20 × 4」の問題に対しては全国平均を大きく上回っている。(本校91.5% 全国80.9%) 県(中1) 国語は県平均より低い。「読む能力」の領域に課題がある。 社会は県平均よりかなり低い。特に「我が国の歴史」「我が国の政治」の分野に課題がある。 理科は県平均より低い。「生命」「地球」の分野に課題がある。 数学は県の平均とほぼ同程度である。	【学習状況調査の結果】 全国(小6) 朝起きる時間が決まっている児童(本校42.6% 県57.7%)や朝食を毎日食べている児童(本校80.9% 県87.9%)が県平均より少ない。 家でテレビゲームする時間が県平均よりかなり多い。 (1日あたり2時間以上と回答した児童 本校42.6% 県30.6%) 予習や復習をしていない児童が県平均よりかなり多い。 自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることが難しいと考えている児童が県平均より多い。 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ではないという割合が県平均より少ない。 総合学習の時間に情報を本やインターネットで調べ、整理し、発表するなどの活動に取り組んでいるという児童が少ない。 あいさつをしている児童が県平均より多い。 先生は自分のことを賞めてくれると答えている児童が多い。 普段、図書室や図書館を利用して本を読んでいる児童が県平均より多い。 (週に1～3回以上と回答した児童 本校25.5% 県18.7%)

算数科においては2年生より習熟度別少人数指導を行ってきた結果、算数が好きだと答える児童が県の平均より多い。 朝学習等で読書の定着は見られるが、長文や複合問題などを読み取る力にむずびついでいない。 自分の考えを説明したり、条件に沿って書いたりすることに課題がある。 長文の読み取りに課題があり、問題文の把握ができず、無回答率の高さにつながっている。 宿題をやってくる児童は多いが、自分から予習をしたり復習をしたりする児童は少ない。 どの子ども最後まであきらめずに課題に取り組むことができる学習環境づくり・授業づくりをしていく必要がある。	課題に対応した改善方法
	どの教科においてもめあてを提示し、児童が学び合う場や活躍できる場を設定することで主体的に学ぶことができるようにする。 算数科を中心に少人数指導・習熟度別学習を進めきめ細かい授業を徹底する。 算数の学習は振り返り・めあての確認・自力解決・話し合い・発表・まとめ・練習を基本に進める。 授業の中で自分の考えを書き、発表する機会を必ず設けるようにする。 興味関心や意欲を持たせるために視覚支援の教材を用意したり、グループで学習できる教材を用意する。 朝学習の時間を有効に活用し、ドリルやスキル学習を繰り返し行い基礎学力を高める。(全校での統一した取組) 放課後に必要に応じて補充学習を行う。 読書後のミニ感想や本の紹介をするなどして内容を把握する力をつける。 総合的な学習では、一人ひとりが興味を持って調べる活動や発表できる場を作り、まとめたことを児童や保護者や下級生等に紹介する機会を設ける。 自主学習で予習や復習をするように働きかけ、全校で自学学習に取り組む。良いノートは児童に見せて参考にさせる。 TVやゲームの時間を少なくし家庭学習の時間を確保できるように懇談や通信で家庭に呼びかける。また、定期的に点検週間を設けるなどして家庭学習習慣の定着をめざす。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標（数値目標）
児童の学習や生活の状況をアンケートで学期に1回程度確認する。 日ごろの学習やテスト結果を学年で交流し、早めに対策を練り、児童の理解度を向上させる。 小テストを定期的に行い、理解・定着ができていくか細かく確認をする。 3学期には過去問題を解いてみる。	全国・県の学習調査は各教科とも平均正答率が県平均と同程度になることをめざす。 家庭学習が1・2年生は20分以上・3・4年生は40分以上・5・6年生は60分以上の児童の割合を95%をめざす。 「各教科が好き」「授業がわかる」と回答する児童生徒の割合を県平均以上にする。